

日本家禽学会誌

論文投稿規程

1. 日本家禽学会誌は、日本家禽学会が発行する和文誌である。本学会誌は家禽学のすべての分野を対象とした、原著論文（研究論文、研究ノートおよび技術報告）、総説、解説・情報・資料および最新の家禽学・家禽産業に関する情報を掲載する。本誌は年間2号発行される。
2. 原著論文は家禽学の分野において価値のある内容をもつものとし、投稿を原則とする。総説は編集委員会が依頼したものを主とする。解説・情報・資料は特に家禽産業の発展に資する内容をもつもので、投稿を原則とするが、編集委員会が執筆を依頼することもある。
3. 原著論文および総説は他誌に未発表または非投稿中のものに限る。
4. 投稿原稿の採否は複数の審査委員の査読を受けた後、編集委員会が決定する。採択された論文の掲載は、原則として審査終了（採択）順とする。なお、動物実験に際しては、各所属機関あるいは国の定めた規定（実験動物の飼育及び保管に関する基準、畜産に関する飼養管理等）に準じて適切な実験計画および動物の飼育管理に配慮し、論文作成に当っては適用した倫理規定を明記するものとし、動物実験倫理に著しく反すると判断した場合は不採択とする。
5. 本誌に掲載された原稿の著作権は日本家禽学会に属する。掲載に先立って、著者は著作権移譲同意書に署名しなければならない。
6. 原著論文については次の規定に従う。

- (1) 原稿は縦のA4サイズ用紙に上下左右約3cmの余白を残してMicrosoft Wordを用いて作成し、連続ページ番号を下側の中央余白に、行番号を左側の余白に記入する。原稿は35字×25行の横書きで、使用する日本語の書体は明朝とする。第1ページ左上に、研究論文、研究ノート、技術報告、総説または解説・情報・資料のうち、どのカテゴリーの論文かを明記する。

①研究論文

研究論文は独創的な研究であり、家禽学上価値ある新知見を含み、かつ結果に対する論議・考察が十分になされているものとする。

第1ページをタイトルページとし、表題、著者名、所属機関とその所在地、15字以内の略表題、および責任著者（氏名、電話番号およびファックス番号、電子メールアドレス）を記載する。第2ページに800字以内の要約と6個以内のキーワードを記載する。第3ページから緒言、材料と方法、結果、考察、(謝辞)、引用文献、図表およびその説明文の順に記載する。最終ページに表題、著者名、所属機関とその所在地、300語以内の抄文および6個以内のキーワードからなる英文抄録をつける。抄録は目的、方法、結果、結論が読み取れる内容とし、12ポイントの字体（Times または Times New Roman が望ましい）で印字する。

②研究ノート

研究ノートは限られた部分に関する新知見、新しい研究方法や事実もしくは追試などの報告とする。記載形式は原則として研究論文に準じた構成とする。

③技術報告

技術報告は、研究・実験・産業に関連する技術問題をとりあげ、家禽学および家禽産業における今後の発展に寄与するものとする。記載形式は原則として研究論文に準じた構成とする。

④総説

家禽科学・技術に関する学術研究について、その動向と最新の情報を体系的にまとめるものとする。記述形式は、タイトルページ、要約、緒言、論文内容、謝辞、引用文献、図の説明、

表, 図の構成とする。

⑤解説・情報・資料

家禽産業・科学・技術に関する解説・情報・資料とする。記述形式は任意を原則とするが、タイトルページ, 内容, 謝辞, 引用文献, 図の説明, 表, 図の構成とすることが望ましい。

(2) 本文

論文中の数字は算用数字とし, 化学名, 物理・化学量は IUPAC の勧告に従う。単位の略号は原則として SI 単位を用いる。SI 単位に含まれないもの, および常用されていない単位については慣用的に用いられている単位を使用してもよい(例: °C, h, min)。特殊な略語は, 要約と本文中で最初に使用する個所で正式名称を記し, () 内に略号を示す。動植物の学名やラテン語系副詞などはイタリック体とする(例: *Gallus gallus, in vivo*)。また, 和文論文中の外国人名やその他の外国語は原語で書き, 動植物名は原則として, 片仮名書きとする。

(3) 引用文献

本文中に文献を引用する場合, 引用個所の後に著者の姓と年号を括弧付きで記入する。また, 著者名の後に引用する場合には, 年号を括弧付きで記入する。著者が 2 名のときは両者の姓を併記し, 3 名以上のときは筆頭著者以外を和名表記の場合は“ら”, 英名表記の場合は“*et al.*”と略記する。原則として、審査制度の無い雑誌に掲載された論文、学会発表要旨および Personal Communication の引用は認めない。ただし技術報告, 解説・情報・資料の引用文献には, 学会講演要旨および審査員制度を採用していない雑誌に掲載された論文も含めることができる。ウェブサイトからの引用についても原則認めないが, 公的機関が運営するサイトに限り引用してもよい。

引用文献リストは筆頭著者の姓のアルファベット順に配列し, 同一筆頭著者の文献が複数の場合は発表順に, さらに同一年の場合は次の著者の姓のアルファベット順とし, 以下の例のように作成する。

1. 雑誌掲載の引用文献は, 全員の著者名, 表題, 雑誌名 (略さない), 巻, 開始-最終ページ, 発行年の順に記載する。

(例)岡野 香・山田太郎. 岐阜地鶏における初生時黄色綿毛・雌黄笹羽装について. 日本家禽学会誌, 18: 328-334. 1981.

Lake PE, Stewart JM and Rojas SW. Preservation of fowl semen in liquid nitrogen – An improved method. *British Poultry Science*, 19: 187-194. 1978.

2. 単行本の記載は, 著者名, 書名, 版, 引用ページ, 発行所, 発行地, 発行年の順とする。分担執筆の場合は著者名の次に表題, 編集または監修者名を加える。

(例)長野 實. 家禽の経営管理. 家禽学 (奥村純市・藤原 昇編). 第 1 版. 109-116 頁. 朝倉書店. 東京. 2000.

Simkiss K and Taylor TG. Shell formation. In: *Physiology and Biochemistry of the Domestic Fowl* (Bell DJ and Freeman BM eds.). Vol.3. pp.1331-1343. Academic Press. London. 1971.

(4) 図および表

①図および表は A4 サイズ用紙 1 ページに 1 つの図または表を記入する。原図はそのまま印刷できるように作成する。図表の右下には筆頭著者名と図表の番号を記入する。図表の内容と説明文は日本語とする。

②印刷時の図の最大幅は原則として横 16.5 cm×縦 19 cm で, 文字(数字)や記号の大きさは 1.5mm 以上, 線の太さは 0.2 mm 以上とする。グラフや模式図における縦軸・横軸の説明, 数

字、記号のフォントは明朝とし、原図に直接記入する。図は原則として提出されたままの大ききで記載されることを考慮し、刷り上り時に図中の文字および数字の大ききが8ポイント以上になることを目安にする。

③図表は引用文献の後に添付するか、もしくは複数の図表を1つのPDFファイルにまとめたものを別途提出する。なお、図（特に写真）のカラー種別は、投稿時と印刷時とで同一でなければならない（カラー図版で投稿したものを印刷時に白黒に変更することはできない）。

④図のカラー印刷を希望する場合は、投稿申込書にその旨を記載する事。費用は著者の実費負担とする。料金は別途定める。

7. 原稿の提出

原稿の投稿は電子メールとし、論文原稿と投稿申込書の電子ファイルを添付ファイルで送付する。

8. 採択後の最終原稿の提出

採択された論文の本文はMS Wordで作成したものを提出する。図表については、MS Word、MS ExcelまたはMS Powerpointで作成したものを提出する。写真などの画像ファイルは300dpi以上とし、JPEG形式またはTIFF形式で作成したものを提出してもよい。

投稿申込書の電子ファイルは日本家禽学会 Web からダウンロードできる。

論文原稿と投稿申込書の送付先：

〒305-0901

茨城県つくば市池の台2

農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門

日本家禽学会編集委員会

E-mail: jpsa-s@naro.affrc.go.jp

電話・ファックス: 029-838-8777

<http://jpn-psa.jp/>

9. 論文の掲載費用については、別に定める。

10. 別刷りの経費は論文ページ数に応じて、別に定める基準により著者負担とする。

11. 著者による校正は1回とし、通信著者に送付される。訂正後直ちに原稿を事務局に返送しないと掲載が遅れることがある。校正時の変更は誤植の訂正に限る。論文の体裁を統一するために編集委員会で修正することがある。

附記 本規程は2016年4月25日から施行する

【備考】

1) 投稿申込書は日本家禽学会 Web からダウンロードできる：<http://jpn-psa.jp/>

2) 日本家禽学会誌の論文掲載料

会員*	3,000 円/ページ
非会員	6,000 円/ページ
カラー図	40,000 円/ページ
*著者に日本家禽学会会員が含まれること。 カラー印刷には別途料金が追加される。	

日本家禽学会誌 論文投稿申込書

原稿の種類 (○印を付けて下さい)

日本家禽学会誌 : () 総説, () 研究論文, () 研究ノート, () 技術報告, () 解説・情報・資料

研究分野 (○印を付けて下さい)

() 遺伝・育種, () 飼料・栄養, () 解剖・組織, () 繁殖, () 生理, () 環境・衛生,
() 畜産物利用・加工

表題 英文:
和文:

著者名 (全員) 英文:
和文:

送付原稿 原稿枚数 枚
図表枚数 枚 [カラー印刷 () 不要; () 要]
写真枚数 枚 [カラー印刷 () 不要; () 要]

略表題 (和文で15字以内):

キーワード (英文, 和文ともに6個以内)
英文:
和文:

連絡先 住所 (〒)
責任著者氏名
電話 FAX
E-mail

研究論文としての保証 (研究論文, 研究ノート)

この論文は, 日本家禽学会誌への掲載可否が決定するまで, 他の学術雑誌等に掲載されたこと, または投稿することはありません。

責任著者氏名: (署名)
日 付:

<英文要旨>

<和文要旨>

お願い

1. 投稿の方法は学会ホームページ(<http://jpn-psa.jp/toukou/>) に掲載されています。
2. 「投稿申込書」は学会ホームページからダウンロードして下さい。
3. 論文原稿とともに投稿申込書を E-メールで日本家禽学会編集委員会 (jpsa-s@naro.affrc.go.jp) までお送り下さい。
4. 投稿して5日後までに論文受付のE-メールが届かない場合には編集委員会にお問い合わせください。

〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 農研機構 畜産研究部門 日本家禽学会編集委員会
TEL & FAX : 029-838-8777 E-メール : jpsa-s@naro.affrc.go.jp

日本家禽学会誌（和文誌）原稿サンプル

1 ページ目

（研究論文）

ニワトリの産卵成績と卵質に及ぼす脱塩濃縮梅酢の影響

伊丹哲哉¹・香川高士¹・細川 清²・吉村幸則³

¹ 和歌山県農林水産総合技術センター畜産試験場養鶏研究所，和歌山県日高郡中津村船津 644-1111，² 株式会社紀州ほそ川，和歌山県日高郡みなべ町晩稻 645-0022，³ 広島大学大学院生物圏科学研究科，東広島市鏡山 739-8528

略表題 脱塩濃縮梅酢添加と産卵性

連絡者 伊丹哲哉

〒644-1111

和歌山県日高郡中津村船津 1090-1

Tel 0738-54-0144

Fax 0738-54-0966

E-mail itami_t0001@pref.wakayama.lg.jp

日本家禽学会誌（和文誌）原稿サンプル

2ページ目

各種の有機酸やアミノ酸、ミネラルが含まれる梅酢を脱塩し、真空濃縮した脱塩濃縮梅酢（BX70）および梅肉エキスを飼料に添加し、白色レグホン種産卵鶏の産卵性および卵質成績に及ぼす影響を検討した。試験区は、-----

キーワード：ニワトリ，梅酢，産卵成績，卵質

第2ページに800字以内の要約と6個以内のキーワードを記載する。

日本家禽学会誌（和文誌）原稿サンプル

3ページ目以降

緒言

梅は、古来より和漢民間薬として使用され、その果実には有機酸、ミネラルなどが含まれていることが知られている（亀岡と北側，1976）。主に食用とされる梅干（梅漬け）も同様で（金子ら，1989）、青梅から生産される梅肉エキスにも有機酸、アミノ酸などの有用成分が含まれることが報告されている（中村，1995）。梅のアルコール漬け――

材料と方法

1. 供試鶏および管理

2002年3月19日に孵化した白色レグホン種産卵鶏（ジュリア）を初生ヒナで導入して育成し、70日齢で試験鶏舎に移動して――

結果

BX70 および梅肉エキスの分析結果を表1と2に示した。BX70 および梅肉エキスともクエン酸とリンゴ酸が組成の4割強を占め、滴定酸度も高かった（表1）。――

アミノ酸組成に――210日齢と270日齢以外の全ての日齢で対照区より添加各区が高かった（図2）。卵殻厚、卵殻破壊――。

考察

有機酸は腸管粘膜に障害をもたらすことなく、腸内細菌を減少させることが知られている（Chaveerach *et al.*, 2004）。また、クエン酸や――生体にとって有害なアンモニアの産生や微生物の代謝産物を低減させることが考えられている（Dibner and Buttin, 2002）。――

謝辞

実験に使用した、梅肉エキスを提供して頂いた、宇都宮洋才博士（和歌山県立医科大学，和歌山市）には深謝致します。

引用文献

- Lake PE, Stewart JM and Rojas SW. Preservation of fowl semen in liquid nitrogen - An improved method. *British Poultry Science*, 19: 187-194. 1978.
- 長野 實. 家禽の経営管理. 家禽学 (奥村純一・藤原 昇編). 第1版. 109-116頁. 朝倉書店. 東京. 2000.
- 岡野 香・山田太郎. 岐阜地鶏における初生時黄色綿毛・雌黄笹羽装について. *日本家禽学会誌*, 18: 328-334. 1981.
- Simkiss K and Taylor TG. Shell formation. In: *Physiology and Biochemistry of the Domestic Fowl* (Bell DJ and Freeman BM eds.). Vol.3. pp.1331-1343. Academic Press. London. 1971.

引用文献リストは筆頭著者の姓のアルファベット順に配列し、同一筆頭著者の文献が複数の場合は発表順に、さらに同一年の場合は次の著者の姓のアルファベット順とする。

日本家禽学会誌（和文誌）原稿サンプル

Improvement of Egg Laying Performance by the Demineralized and Condensed Ume Vinegar in Hens

Tetsuya Itami¹, Takashi Kagawa¹, Kiyoshi Hosokawa² and Yukinori Yoshimura³

¹Wakayama Prefecture Research Center of Agriculture, Poultry Farming Research Laboratory, Forestry, Fisheries and Livestock Experimental Station, Hidaka-gun, Wakayama-ken 644-1111; ²Kishu Hosokawa Co., Hidaka-gun, Wakayama-ken 645-0022; ³Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University, Higashi-Hiroshima 739-8528

Ume vinegar, a by-product of ume (a plum) food processing, may contain various organic acids, amino acids and minerals. The BX70 was---

Key words: chicken, egg laying performance, egg quality, ume vinegar

表題，著者名，所属機関とその所在地，300 語以内の抄文および6 個以内のキーワードからなる英文抄録をつける。内容は論文の和文要約と同じ。